



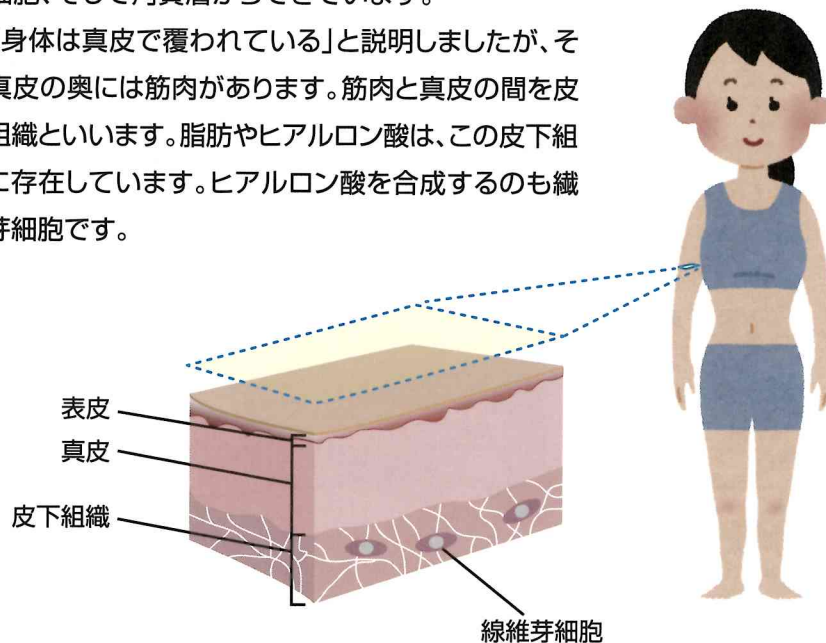
皮膚の基本構造

皮膚は、人体を覆っています。人体は、丈夫な布で覆われているようなものだと思います。布の本体になるのは、真皮といわれるものです。人体では厚さ1~2mmの薄い布です。牛では数mm以上あり、丈夫な膜になっています。牛の真皮が牛革になり、各種の皮製品になっています。

真皮は、布のようなものである、と説明しました。布は繊維でできています。つまり、細い糸をつむいで、布を作っているのです。真皮を作る細い糸、それがコラーゲンです。コラーゲンは、アミノ酸がつながってできた細い糸です。そのコラーゲンを合成するのは、繊維芽細胞です。

真皮の表面、つまり、外側には薄皮がついています。この薄皮を表皮といいます。人体においては、厚さはわずかに0.1~0.2mmです。表皮は、胚芽細胞と表皮細胞、そして角質層からできています。

「身体は真皮で覆われている」と説明しましたが、その真皮の奥には筋肉があります。筋肉と真皮の間を皮下組織といいます。脂肪やヒアルロン酸は、この皮下組織に存在しています。ヒアルロン酸を合成するのも繊維芽細胞です。



ポイント

- ◆皮下組織の脂肪とヒアルロン酸が、皮下組織の体積と膨らみを作っている。
- ◆コラーゲンは、アミノ酸がつながってできた細い糸である。
- ◆真皮は、コラーゲンで編まれた丈夫な布である。
- ◆表皮の厚さは、真皮の厚さの10分の1くらいである。